

# スペシャリスト系列

## 農 業



### 1 系列の特色、系列の学びを通して身に付ける力

本校農業科では、農業に関する専門的な教科を中心に実践的・体験的な学習活動を通じて基礎的な知識及び技術を習得する。他校ではできない教科を横断した、栽培から加工・販売まで幅広く総合的に農業について学ぶ。

「食品製造」では、HACCPを取り入れた県内農業高校最先端の実習施設において、パンや菓子類・各種ケーキ類および、ゼリー・プリンなどのデザートを中心にジャムや麺類などの幅広い分野において製造実習を行い、製品は、校内の「Caféふう」をはじめ、地域やインターネット等で販売する。

「草花」では、マリーゴールドなどの花壇用苗やシクラメンなどの鉢物を中心に栽培し、草花栽培についての基礎・基本を学び、栽培した草花を地域にて販売し、草花の活用や流通についても学ぶ。そのほか、温室では底面給水および自動かん水を導入し、労働力を省力化した栽培についても学ぶ。

「野菜」では、生徒一人一人が作付けを計画し、栽培管理について学ぶ。また、放射線量測定装置を使用し、畑や収穫した農作物の放射線量について測定し、安全・安心な食料の持続的な生産と供給について学ぶ。近隣幼稚園と連携し、生徒が先生役となって園児と一緒にサツマイモの植え付け、収穫、サツマイモのツルを活用したクリスマスリース作りなどにも取り組み、農業の多面的な役割についても学んでいく。

また、本校の農業科では、地域に貢献できる人材の育成を目指し、実習や農業クラブ活動を通して地域と連携した様々な実践を行う。震災により途絶えてしまった製菓店の銘菓の復活や、震災によって大きな影響を受けた地域の特産物を利用した菓子の開発と製造、震災前のように地域を町花で彩るための栽培と実践、企業と連携したコラボメニューの開発等、地域と連携した取り組みを通じて、既成概念にとらわれず、様々な視点から思考・判断し、地域課題を解決する力を身に付けていく。

### 2 想定される進路と、進路実現方法

農業系専門学校や農業関連産業への進学・就職以外にも将来的に多岐にわたり地域で活躍できる担い手を育成する。地域課題と真剣に向き合い農業を総合的に学習することで、自らの生き方を見出し、進路につなげていく。

# スペシャリスト系列

## 商業



### 1 系列の特色、系列の学びを通して身に付ける力

本校商業科では、探究と商業科目を往還させながら、ビジネスの手法を取り入れて福島の復興を推進していく人材の育成を目指している。これは、専門学科の商業高校や大学で学ぶCommerceではなく、福島の復興につながるBusinessの創造を目指す本校独自の取り組みになっている。

商業高校の特色は、体系的なカリキュラムにより様々な知識やスキルを習得し、総合実践や課題研究に取り組む「基礎から築き上げる学び」が構築されている。一方本校では、原子力災害からの復興をテーマとして、SB（ソーシャルビジネス）という観点を取り入れた実社会での実践に取り組む。持続性や社会性の高いビジネスモデルの構築に向け、実践的な活動を軸としながら、基礎知識も習得していく学びが構築されている。また、スペシャリスト系列各科で協働する実践を重ねることにより、2年次からの未来創造探究に必要な知識やスキルを学び、実社会での実践を通して学びを深めていく。

※ 各教科の協働例：工業科によるフェイスシールドや3Dプリンタによる作品制作、農業科による地元特産品の菓子開発と製造、福祉科による地元住民との特産品収穫等がある。

また、商品開発を行うことで、地元農家と交流しながら現実的な問題を確認し、製造業者との交渉を通じて原価計算やラベルデザイン制作のスキルを学んでいる。完成後は、販売先と交渉を行い商品の販売の場を継続的に確保している。この実習では他校にはない、校内に設立した一般社団法人においてソーシャルビジネスの実践へと発展させ、探究活動につなげていく。

こうした取り組みによって、従来の商業高校のように資格取得によって進路実現を目指すだけではなく、地域や社会の課題解決に必要な実践力とスキルを兼ね合わせた人材を育成し、地元で活躍できる生徒の育成をしていくことが、本校商業科の最大の特色である。

### 2 想定される進路と、進路実現方法

地元企業への就職がメインとなる。授業を通して簿記などの会計を中心に、マーケティング分野を学習し、浜通りの産業を魅力化していく核となる人材の育成を目指している。課題研究等での販売実習やイベントでの地元企業との協働を通じて、地元企業についての理解を深め、自らの生き方を考え、進路実現につなげていく。

# スペシャリスト系列

## 工業



### 1 系列の特色、系列の学びを通して身に付ける力

本校工業科では、探究と各科目を往還させながら、判断力、行動力、発信力のある生徒を育成している。これは、専門学科の工業高校の縮小版ではない、地域のリーダーを育成する独自の取り組みである。

工業高校では、例えば「機械科」であれば、その科に関する科目を履修することになる。一方、本校では、原発事故からの復興について、エネルギーという観点から特に学習しており、特定の科の科目に縛られず幅広い分野について学習を行っている（地球環境化学：化学系、電力技術：電気系、社会基盤工学：土木系）。また、学校設定科目「地域エネルギー」を履修させ、探究学習等で身に付ける地域課題の解決法を活かし、地域のエネルギーについて考えを深めている。こうした学びによって、再生可能エネルギーの仕組みや活用法について理解し、様々な場で課題解決に取り組む人材が増えていくことが、本県が目指す「2040年頃に、県内エネルギー需要の100%相当量を再生可能エネルギーで生み出す」社会や地域の創造に繋がっていく。

また、幅広い系列が協働する総合学科の特色を生かし、他系列から製作物の依頼に応じている。工業高校では外部と連携しなければ体験できない、受注品の製作活動が内部で実施できる。技能の習得においても、基本的な実験装置を用いて、自分たちで製作できるような「ものづくり」の基礎を学んでいる。

※ 各教科の協働例：商業科や本校カフェからLEDイルミネーションや感染対策アクリルパネルの製作や、農業科と連携したセメント・モルタルでの作品の作製等

こうした取り組みによって、従来の工業高校のように技能の習得に力点を置いた「プロダクトアウト（生産者視点のものづくり）」の職人気質の人材ではなく、現実社会や異なる専門分野との協働による「マーケットイン（消費者視点のものづくりや課題解決）」の難しさを体感しながら学び、地域や社会の課題解決に貢献していく人材を育成していくことが、本校工業系列の最大の特色である。

### 2 想定される進路と、進路実現方法

基本的には製造業、エネルギー関連施設への就職を想定しているが、さらに深く工業分野について学びたい生徒については進学も可能である。

# スペシャリスト系列

## 福祉



### 1 系列の特色、系列の学びを通して身に付ける力

本校福祉科では、就職希望者を中心として多様な進路に対応できるよう「福祉の心」をはぐくむ授業を展開している。授業では、福祉に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、福祉の視点で社会の諸課題に向かい、考える力を高め、探究活動とも関連させて課題を解決する力や表現する力を身につける学びを展開している。

スペシャリスト系列福祉では、家庭科各科目での学習も生かしながら、2年次の「生活と福祉（家庭科科目）」で「生活援助従事者研修」を実施し修了を目指し、3年次で自分の進路にあった様々な資格取得に取り組む。

※ 生活援助従事者研修とは、訪問介護事業所で必要となる資格の一つで、訪問介護員（ホームヘルパー）の業務のうち、生活援助における支援を行うことができるようになるものである。生活援助業務とは主に、利用者の日常生活全般における支援のことで、具体的には①掃除、②洗濯、③料理、④リネン交換、⑤生活用品の買い物（通常の事業実施区域内）、⑥そのほか、日常生活において必要となる支援（薬の受け取りなど）である。

地域に貢献できる人材を育てる意味で、地元の社会福祉協議会をはじめ、様々な施設等と連携し実践的な学習を行う。例えば、特別養護老人ホームや障害者施設での実習や、子ども園における園児との交流、さらには地元公民館やスポーツクラブとのかかわりを持ちながら、地域に根差した学習活動を展開する。また、ボランティア活動に取り組めるよう、様々な機会を提供する。

### 2 想定される進路と、進路実現方法

これまでの卒業生の進路は、介護職としての就職のほか、一般企業への就職や、福祉関係あるいは自らの進路実現のための上級学校進学などである。本校福祉科としては、2年次に「生活援助従事者研修」を受講・修了し、介護系への就職希望者には3年次に「介護職員初任者研修」の受講を勧める。一般企業への就職希望者等に対しては、福祉の視点をもって社会で活躍できるよう指導を行なっている。